

がザイバ[®] + トレアキソ[®] 【血液】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		グラセプトン注 + デキサト注	副作用(吐き気)を抑える薬です。 2日目はアキソ注 + デキサト注を投与します。
2		トレアキソ注	治療のためのお薬です。1、2日目に1時間かけて投与します。
3		がザイバ [®] 注	治療のためのお薬です。投与速度は患者毎に異なります。 1日目に投与します。1コース目のみ8、15日目にも点滴します。

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		ポラミン	副作用(過敏反応)を抑えるためのお薬です。
2		加ナル細粒	副作用(過敏反応)を抑えるためのお薬です。

投与スケジュール

薬品名	日数																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
トレアキソ注	↓	↓																										
がザイバ [®] 注	↓						↓								↓													

投与間隔：4週間

1日目：がザイバ[®]、トレアキソ

2日目：トレアキソ

(8、15日目：がザイバ[®] ※1コース目のみ)

GB(ガザバ[®] + トリアキソ)療法【血液】

よく起こる副作用

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日に減少します

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球(細菌などから体を守る)、血小板(出血を止める)、赤血球(酸素を運ぶ)の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制(障害)といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症:37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など
- 貧血:疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など
- 出血:紫斑(原因不明のあざ)、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。
○血が止まりにくくなる場合がありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★悪心・嘔吐および食欲不振

発生時期 薬剤投与日～5日目位まで

※まれに、以前の化学療法後の嘔吐の体験が影響し、点滴の数日前からおこるものがあります。

症状 食欲が落ちたり、味覚の変化、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

対処法 ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。症状によっては吐き気止めの内服薬を服用することもあります。
○脱水をおこさないように水はこまめにとるように心がけましょう。
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。
○事前に吐き気止めの薬を点滴あるいは服用します。症状がでた後に、吐き気止めの薬を追加することもできます。

★過敏反応 (インフージョンリアクション)

発生時期 薬剤投与中～投与開始後24時間以内

症状 発熱、疼痛、ほてり、頭痛、頻脈・心悸亢進(心拍数が著明に亢進すること)、血管浮腫(舌・喉のはれとして認められることがあります)、咳・呼吸困難、そう痒(かゆみ)、吐き気、虚脱感、悪寒(震え)、発疹などがあらわれることがあります。

対処法 ○インフージョンリアクションのおそれがある場合は薬剤の投与前に予防薬を投与します。
○点滴中、点滴後(特に24時間以内)においても気になる症状が現れた場合には、すぐに医師や看護師・薬剤師に知らせてください。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★間質性肺炎

★間質性肺炎

発生時期 薬剤投与後数日～数週間

症状 発熱、から咳、呼吸困難(息苦しい)、頭痛、倦怠感などの風邪のような症状があらわれることがあります。

対処法 ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち(風邪のような症状)から治療する必要があります。

その他の副作用

★静脈炎

発生時期 薬剤投与開始時～数日

症状 薬剤が投与されている血管にそって痛み、熱感、腫れ、発疹や違和感などが現われることがあります。

対処法 ○投与中だけでなく、しばらくしてから症状が現われることもあります。針を刺した部分に違和感を感じたら、直ぐにお知らせください。

★その他

症状 便秘、倦怠感、口内炎、味覚異常など

対処法 ○症状に応じて対症療法を行います。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院 (薬剤部)

